

令和2年度 GLEP 海外インターンシップ報告書

学部：経済学部

学年：3年

氏名：安永 未来

対象国：オーストラリア 期間：2月13日～3月7日

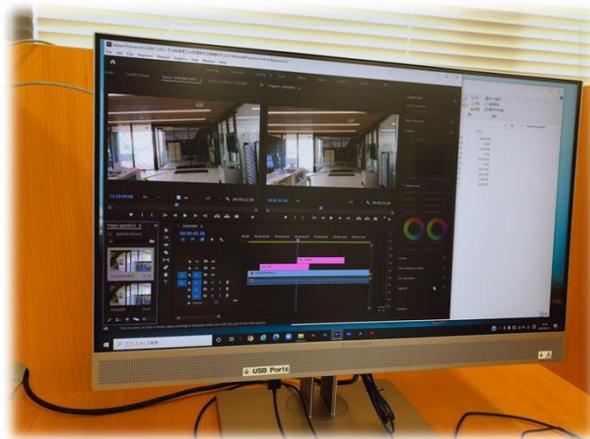
場所：西オーストラリア州・兵庫文化交流センター

・インターンシップ参加の動機

私がこのインターンシップに参加しようと考えたのは、オンラインでの海外インターンシップに興味を持ったからです。私自身、就職活動を控えていましたが、英語力を鍛えたい、オンラインという特性を活かして兵庫県の魅力を発信する活動をしたという思いで申し込みました。令和2年度の GLEP 海外インターンシップは新型コロナウイルス感染症の影響で、例年と比較して大きく実施内容が変化しました。今回はじめてオンラインでのインターンシップが開催されるということで就職活動との両立が可能だと感じました。

・インターンシップ内容

当初はオンラインという長所を活かして、兵庫県の観光地を訪れ、その場所を英語で紹介する動画をつくることを予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言により観光地を訪れることができなくなったため、インターンシップ内容の大幅な変更を余儀なくされました。実際に行った内容は JET プログラム(外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業)参加者に対する兵庫県の観光地・食べ物についてのアンケート結果の分析です。アンケート結果のデータを頂き、エクセルでアンケート結果を集計し、ワードでグラフを用いながらその分析結果をまとめて提出しました。



当初予定していた動画作成のための準備の様子

・学んだこと、得たこと

私は兵庫県出身なのですが、アンケート集計中に聞いたことのない地名が多く出てきて、まだまだ地元には魅力があるということに気づけたのが最大の収穫だったと思います。また、人にものを伝える際は、相手の視点で考えなければならないということを再認識したインターンシップでした。

・印象に残ったこと

印象に残ったのは初回の顔合わせ以外はすべてメールでのやりとりだったことです。文面でのやりとりでしたが、担当者の方から様々なアドバイスを頂いて納得のいく報告書を完成させることができました。

・苦労したこと

当初は英語を使って観光地の案内をする予定で準備をしてきましたが、直前になってインターンシップの内容に変更が生じ、モチベーションを維持するのが難しかったです。しかし実社会では予定通りに物事が進まないことのほうが多いので、その都度求められることを先回りしてやっていく能力の重要性に気づきました。また、私はデータを扱う経験が少なく、アンケートで複数選択可能な項目を集計するのに苦戦しました。わからないことは何度もインターネットで調べ、最終的には解決することができました。



・インターンシップ参加に当たって必要な語学力・スキル

語学力は中学、高校レベルの英作文ができれば問題なかったです。今回のインターンシップは報告書作成が主でしたので、先方と英語で会話する機会はほとんどありませんでした。代わりに重要だったのはエクセルのスキルでした。

・この経験を今後どう活かしていくか

今回のインターンシップで、私は、見る人にわかりやすい報告書を作成することの大切さを教わりました。担当者の方から誰にとっても見やすく、理解しやすい図や言葉を意識する

ように何度も指導していただきました。卒業後に社会人として働くうえで、この経験を報告書や資料作成の際に活かしていきたいと思います。



・後輩へのメッセージ

海外インターンシップに参加するかどう悩んでいる人はぜひ挑戦してみてください。来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く可能性はあり、どんなインターンシップになるかは不明瞭な点が多いと思います。しかしながら、自分から提案していけば自分らしいインターンシップにしていけることが可能でもあります。また、オンライン実施の場合、スケジュール調整が容易なところが魅力のひとつです。もし、忙しいけれど興味があるという人がいれば、まずは実施先と相談してみるのも一つだと思います。実りあるインターンシップになることをお祈りしています。